山形大学医学部附属病院からの
お知らせ
NEWS
winter 2026
31
発行：2026年2月

● Topics…「山形大学医学部附属病院 地域連携会」を開催しました
● 取組案内1…第二外科　● 取組案内2…放射線診断科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.31が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

「山形大学医学部附属病院 地域連携会」を開催しました

10月18日(土)、山形市のパレスグランデールにて「山形大学医学部附属病院 地域連携会」を開催しました。

本会は、紹介・逆紹介の関係にある県内医療機関に、特定機能病院である当院の特性や機能をご理解いただき、連携を一層強化することで地域医療の水準向上を図ることを目的としています。当日は、県内の病院・診療所から延べ136名の先生方にご参加いただきました。

開会にあたり、土谷順彦病院長の挨拶に続き、山形県医師会 間中英夫会長よりご挨拶をいただきました。今年度のプログラムでは、地域医療連携センターによる業務報告に加え、来年度より運用開始予定の「紹介元完結型WEB予約システム」について説明を行いました。

さらに、第一内科(循環器内科)渡辺昌文教授による「山形県心疾患診療の今」、第二外科(循環器外科)黒田吉則病院講師による「心疾患の外科手術」をテーマとした講演が行われました。また、昨年に引き続き、土谷病院長によるQ&Aコーナーを設け、医療機関からの質問にお答えすることで、当院の診療体制への理解を深めていただく機会となりました。

地域連携会終了後には情報交換会を開催し、ご参加いただいた先生方と当院医師との間で和やかな交流が行われました。終了後のアンケートでは、「専門外の講演が参考になった」「対面による交流の重要性を実感した」など、情報共有の場として有効だったとのご意見や当院への期待の声を頂戴しました。

ご参加いただいた皆様に改めて心より御礼申し上げます。今後も地域の医療機関の皆様との連携をさらに深め、地域医療の発展に積極的に取り組んでまいります。

講演：黒田吉則 病院講師

情報交換会の様子

□問い合わせ／山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2　TEL 023-633-1122
https://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/
山形大学医学部総務課広報担当　TEL 023-628-5872　E-mail yu-isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

バックナンバーはこちらから

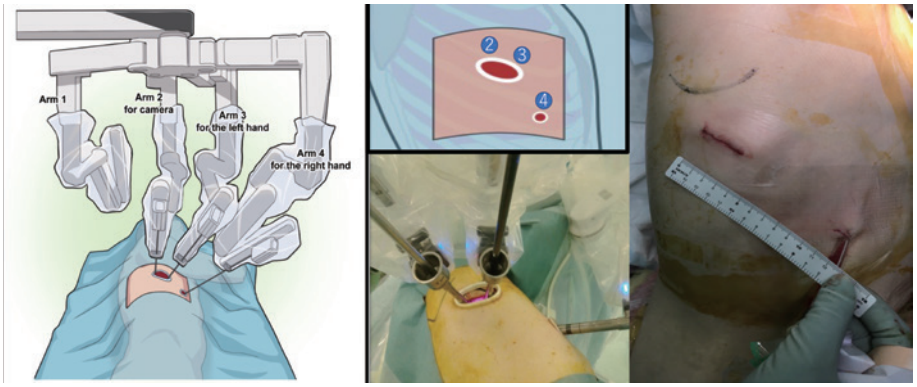
取組案内 1 第二外科

地域に最先端医療を届ける―第二外科（呼吸器外科）

私たち山形大学医学部外科学第二講座（呼吸器外科）では、肺がんをはじめ転移性肺腫瘍、胸腺腫、気胸など幅広い疾患に対応し、山形の地で高度な専門医療を提供しています。日本では肺がんの罹患が増え続けており、当科は外科治療の質を高め、患者さんにより良い選択肢を届けることを使命としています。

診療では、国内外の臨床試験に積極的に参加し、最新エビデンスに基づく治療を実践しています。また、ロボット支援下手術や単孔式手術など低侵襲技術にも注力し、負担を抑えつつ確かな根治性を追求しています。

研究では、若手医師を含め国内外で研究発表を行い、2024年には欧州胸部外科学会で最優秀演題賞を受賞しました。これからも地域のために歩みを止めず進化を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



当科で行っているロボット支援下手術

取組案内 2 放射線診断科

最新鋭のIVR-CTが導入されました

山形大学医学部放射線診断科ではCT、MRI、単純写真、核医学およびPET-CTの読影業務を日々行なっています。この他に、Interventional Radiology（IVR:画像下治療）を行なっており、我々の診療の重要な柱になっています。これはX線透視やCT画像などを用いて、患者さんの身体の中を見ながらカテーテルや針を進めていくものです。具体的には緊急出血に対応する血管塞栓術や狭窄血管を拡張する血管形成術、頭頸部悪性腫瘍に対する超選択的動注化学療法、肺癌などのCT下生検および膿瘍などに対するCT下ドレナージ術など多岐に及びます。IVRは患者さんに低侵襲かつ安全な医療を提供しています。

この度、長らく使用していたIVR-CT装置が更新され、最新鋭のシーメンス社製IVR-CTが導入されました。バイプレーンの高精細のフラットパネル搭載で画像の解像度が増し、より安全かつ精緻な治療が実現できます。また、64列のCTも備えており治療中にCT画像を撮像することができ、病変部の確認も可能になっています。上記に挙げた治療の他に新たにCTを用いた疼痛緩和を目的としたブロック注射も試験的に始まりました。より良い画像で、より安全かつ正確な治療に寄与する最新のIVR-CTは、新たな治療法の開発など、幅広く期待されます。

最新鋭のシーメンス社製IVR-CT